

評価項目	事務局案 (法人評価)		委員意見（要旨）	対応（案）																																																																												
03 救急	7 年度	A (A)	- 救急応需率について、97％の小児総合医療センターをはじめ、10病院において前年度を上回っており、7年度は評価Aが妥当である。 - 救急患者を積極的に受け入れている点は評価できるが、特に、受け取り手が少ない夜間・休日の時間帯について、都立病院がどの程度救急患者を受け入れたか実績を確認できるとよい。	7 年度	A	趣旨を意見書に反映 (参考) 救急車・ホットラインの応需率 <table><tr><th rowspan="2">病院名</th><th colspan="3">令和7年度</th><th>(参考)</th></tr><tr><th>目標</th><th>実績</th><th>達成度</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>広尾</td><td>80.0%</td><td>84.2%</td><td>105.2%</td><td>75.5%</td></tr><tr><td>大久保</td><td>75.0%</td><td>80.5%</td><td>107.3%</td><td>71.3%</td></tr><tr><td>大塚</td><td>75.0%</td><td>84.9%</td><td>113.2%</td><td>74.6%</td></tr><tr><td>駒込</td><td>52.0%</td><td>64.5%</td><td>124.1%</td><td>52.8%</td></tr><tr><td>豊島</td><td>86.0%</td><td>78.1%</td><td>90.8%</td><td>70.5%</td></tr><tr><td>荏原</td><td>86.6%</td><td>76.7%</td><td>88.6%</td><td>73.9%</td></tr><tr><td>墨東</td><td>58.0%</td><td>71.6%</td><td>123.4%</td><td>60.2%</td></tr><tr><td>多摩総</td><td>68.0%</td><td>69.6%</td><td>102.4%</td><td>60.0%</td></tr><tr><td>多摩北</td><td>79.0%</td><td>74.4%</td><td>94.2%</td><td>78.9%</td></tr><tr><td>東部</td><td>79.0%</td><td>80.8%</td><td>102.3%</td><td>76.9%</td></tr><tr><td>多摩南</td><td>57.0%</td><td>62.3%</td><td>109.3%</td><td>55.4%</td></tr><tr><td>小児総</td><td>98.0%</td><td>96.9%</td><td>98.9%</td><td>97.0%</td></tr><tr><td>松沢</td><td>60.0%</td><td>56.7%</td><td>94.5%</td><td>－</td></tr></table>	病院名	令和7年度			(参考)	目標	実績	達成度	令和6年度実績	広尾	80.0%	84.2%	105.2%	75.5%	大久保	75.0%	80.5%	107.3%	71.3%	大塚	75.0%	84.9%	113.2%	74.6%	駒込	52.0%	64.5%	124.1%	52.8%	豊島	86.0%	78.1%	90.8%	70.5%	荏原	86.6%	76.7%	88.6%	73.9%	墨東	58.0%	71.6%	123.4%	60.2%	多摩総	68.0%	69.6%	102.4%	60.0%	多摩北	79.0%	74.4%	94.2%	78.9%	東部	79.0%	80.8%	102.3%	76.9%	多摩南	57.0%	62.3%	109.3%	55.4%	小児総	98.0%	96.9%	98.9%	97.0%	松沢	60.0%	56.7%	94.5%	－
	病院名	令和7年度			(参考)																																																																											
目標		実績	達成度	令和6年度実績																																																																												
広尾	80.0%	84.2%	105.2%	75.5%																																																																												
大久保	75.0%	80.5%	107.3%	71.3%																																																																												
大塚	75.0%	84.9%	113.2%	74.6%																																																																												
駒込	52.0%	64.5%	124.1%	52.8%																																																																												
豊島	86.0%	78.1%	90.8%	70.5%																																																																												
荏原	86.6%	76.7%	88.6%	73.9%																																																																												
墨東	58.0%	71.6%	123.4%	60.2%																																																																												
多摩総	68.0%	69.6%	102.4%	60.0%																																																																												
多摩北	79.0%	74.4%	94.2%	78.9%																																																																												
東部	79.0%	80.8%	102.3%	76.9%																																																																												
多摩南	57.0%	62.3%	109.3%	55.4%																																																																												
小児総	98.0%	96.9%	98.9%	97.0%																																																																												
松沢	60.0%	56.7%	94.5%	－																																																																												
	見込	A (A)		見込	A																																																																											
05 島しょ	7 年度	A (A)	- 島しょの薬剤師に対する勉強会や情報共有等の支援、大島医療センターにおける専門外来開設は評価できる。7年度は評価Aが妥当である。 - 広尾病院を中心に、島しょの救急患者を積極的に受け入れていることも評価できる。 - 島しょ新入院患者数の目標達成度は86％であるが、島しょの人口が減少している中で、患者数のみで評価するのは適切でない。 - 必要な時に診療を受けられるという安心感が重要であり、島しょ医療の充実に向けた継続的な取組に期待したい。	7 年度	A	- 趣旨を意見書に反映 - 評価の指標については、指摘を踏まえ、中期計画の策定に向けて調整する。																																																																										
	見込	A (B)			見込		A																																																																									
06 周産期	7 年度	S (S)	- 精神疾患を合併した妊産婦等、一般医療機関では対応困難な患者の受入れは、まさに行政的医療であり、都民の安心につながっている。また、NICUにおける家族支援の取組も積極的に行っている。 - 母体搬送受入件数や超低出生体重児取扱件数の実績も6年度を上回っており、7年度も評価Sが妥当である。	7 年度	S	- 趣旨を意見書に反映 (参考) - 母体搬送受入件数 638件（R6：617件） - 超低出生体重児取扱件数 118件（R6：93件）																																																																										
	見込	S (S)			見込		S																																																																									

令和 7 年度及び第 1 期見込業務実績評価（案）に対する分科会委員意見とその対応（案）

評価項目	事務局案 (法人評価)		委員意見（要旨）	対応（案）		
07 小児	7 年度	A (A)	- 小児総合医療センターにおいて、小児救急患者数、P I C U 新入室患者数が 6 年度実績を上回っており、救急応需率も 9 6 % と高い水準を維持している。 - 医療的ケア児のレスパイト入院の実績も大幅に増加しており、患者だけでなく、家族への支援も充実させたことも積極的に評価できる。7 年度は評定 S が妥当ではないか。 - 小児科は不採算な分野であり、地域のクリニックも経営難に瀕している中、都立病院が、今後も継続的な取組により、地域の小児医療を支えていくことを期待したい。	7 年度	S	- 高い救急応需率を維持しており、各指標も 6 年度実績を上回っている。医療的ケア児のレスパイト受入等、患者家族支援の実績も評価し、7 年度及び第 1 期の評定は S とする。 - 趣旨を意見書に反映 (参考) - 救急患者数（小児）4,477 人（R6：4,221 人） - PICU 新入室患者数 859 人（R6：777 人） - 医療的ケア児受入件数（レスパイト入院含） 小児総 248 件（R6：180 件）
	見込	A (A)		見込	S	
10 障害者	7 年度	B (B)	- 都内で対応可能な医療機関が少ない中、都立病院が必要な医療を提供していることは都民の安心につながっている。 - 訪問看護のニーズが今後拡大していくため、技術支援等の継続的な取組による質の確保が重要になる。 - 第 2 期に向けては、障害者歯科の手術件数等、定量的な指標を設定すべきではないか。	7 年度	B	- 趣旨を意見書に反映 - 定量的な指標設定については、指摘を踏まえ、中期計画の策定に向けて調整する。
	見込	B (B)		見込	B	
11 総合診療	7 年度	S (S)	- 国や都に先行して地域の病院とともに取組を進めた点は評価できるが、どのような総合診療医を育成するのか、はっきりと定まっていない。取組の途上である印象があり、7 年度は評定 A が妥当である。 - 何をアウトカムとして達成すべきか明確にすべき。	7 年度	A	- 東京都全体の総合診療機能の強化に向けて取組を進めたことは評価できる一方、今後、具体的な成果が表れることが期待されることから、7 年度の評定は A とする。 - 趣旨を意見書に反映
	見込	A (A)		見込	A	
13 緊急事態	7 年度	B (A)	- 新型コロナの対応や能登半島地震における人材派遣等、都の要請に柔軟に対応したことを踏まえ、第 1 期は評定 S が妥当である。 - 緊急時に備えているという観点以外で評価が難しい。有事があれば高評価とすることには違和感がある。	7 年度	B	- 趣旨を意見書に反映 - 評価のあり方については、指摘を踏まえ、中期計画の策定に向けて調整する。
	見込	S (S)		見込	S	

2

令和 7 年度及び第 1 期見込業務実績評価（案）に対する分科会委員意見とその対応（案）

評価項目	事務局案 (法人評価)		委員意見（要旨）	対応（案）		
18 診療データ・研究	7年度	B (B)	- 臨床研究を実施できる体制整備は、都民に適切な医療を提供し続ける上で重要である。 - 研修初期の段階から、臨床研究の基本的な考え方や方法論を身に付けることが重要。研修医の育成において、臨床研究の教育機会を幅広く設けるように検討していただきたい。	7年度	B	趣旨を意見書に反映
	見込	B (B)		見込	B	
19 業務運営	7年度	S (S)	- 柔軟な人事給与制度の構築等、働きやすい組織づくりに取り組んだことも含め、7年度は評定Sが妥当である。 - 電子カルテ標準化・統一化に向けた取組は、医療の質向上や今後の業務効率化に向けた大きな前進であり、高く評価する。これを契機に、診療データの分析や医療の質の可視化など、取組の幅を広げていくことを期待したい。	7年度	S	趣旨を意見書に反映
	見込	A (S)		見込	A	
20 財務内容	7年度	B (B)	- 物価高騰等、病院経営を取り巻く環境が厳しい中での70億円の医業収支改善は、需要に応じた柔軟な病床運用やDPCコーディング等、現場の相当の努力があってこそその成果だと思う。7年度は評定Bが妥当である。 - 期を通して見ると、純損失を計上しており、物価高騰等、病院運営を取り巻く環境が厳しい中であっても、更なる収支改善に向けた継続的な取組が必要である。	7年度	B	趣旨を意見書に反映
	見込	C (B)		見込	C	
その他の意見	- 目標設定においては、件数ではなく、応需率のような、依頼に対してどの程度対応できたのかを示す指標も必要と考える。 - AIが飛躍的に発展している中、デジタル基盤の強化や医療AXの推進が求められる。一方で、サイバーセキュリティ対策も重要であり、都立病院が声を上げて、国や都と連携し、医療業界のサイバーセキュリティ対策を牽引していくべきではないか。 - 高齢化の進展や受療動向の変化等により、今後、急性期需要が減少していくことを踏まえれば、医療提供体制の最適化を検討するべきではないか。			趣旨を意見書に反映		

3